



作り手の横の繋がりを広げ、川辺地区を訪れるきっかけに

ぎやらりー てずくな樂
家具工房 Shin
篠原 代深さん (65歳)
小林 伸年さん (74歳)

「てずくな樂」は地元作家の創作・展示・交流の拠点になればと昨年夏に大久保にオープンしたギヤラリーショップ。冬季休業が明け、4月5日から営業再開する。「あぐりの湯」近く、カーブの脇にある可愛らしい建物で、もとは篠原さんが知り合いの協力を得て建てた機織り工房だった。「たくさんの人に助けられていて、人との繋がりが私の財産です」と篠原さん。このギヤラリー開設も、人の縁が呼び込んだものだった。

工房を有効活用したいと思つた篠原さん、作品を見てかねてからファンだった小林さんに相談をした。この初対面から2カ月、思い立ったら即行動の小林さんに導かれる形で、友人でステンドグラス作家の岡田明子さんと、ナチュラルな服や小物をセレクト販売する高崎日出子さんを誘い、開設にこぎつけた。店は4人のメンバーが日替わりで行なう。

高崎さんセレクトの服に岡田さんが作ったアクセサリ



バードウォッチングも楽しめる小林さん(左)宅のベランダで、篠原さん(右)と。今年の営業は4月5日～。木～日曜、10～17時まで開業。手作り品の展示をしたい人は080-6937-8508まで

と篠原さんが織った帽子を合わせたり、小林さんが作った無垢のテーブルに手織りのマットとステンドグラスのランプを置いたり、組み合わせることでお互いの良さが引き出されるといふ。

篠原さんは大久保出身。ご主人の仕事で全国をまわり、20年程前に小諸に戻ってきた。実家に古い織り機があったことと始めた機織り。羊毛で糸を紡ぐ楽しさを知り、さらに引き込まれていった。一方の小林さんは、ものづくりの夢を叶えるために56歳で会社を退職、職業訓練校では師に恵まれて修行を重ねた。3年後、「五感を研ぎ澄まして制作に打ち込める」環境が整った大久保の森の中に工房を構え、神奈川から移り住んだ。「信州には木と共に過ごす昔ながらの感性を持つていて方が多いです。代々寝かせておいた山の木など、市場ではお目に

かかれない素材を扱うこともあって面白いです」。お二人は最後に「小諸には、移住者や帰ってきた者だからわかる良さがたくさんあります。川辺地区も盛り上げていきたいです」と話してくれました。(取材・文 村松 マヤ)



地区を盛り上げる一助になればと「氷の風穴」を訪れる観光客の休憩所として庭を整備、開放する予定



ゆらさんの四季の薬膳
春は怒ってはダメ!

気温の上昇にともない、陽気が立ち上り、待ちに待った春が到来。この時期、体内では肝臓の働きが活発になり、気が上昇しやすくなります。「頭にきた!」、「頭から湯気が出る」などは気が上ってしまった状態です。昔の人の感性はスゴイです。肝臓は血液を貯蔵し、自律神経と深くかわつています。そのため春の養生の一番は怒らない、イライラしないこと。気を暴走させないことに尽きます。

薬膳的に怒りやイライラを抑えてくれる食物があるかというところ、あります。アロエ、クレソン、せり、セロリ、トマト、ピーマン、穴子、クラゲ、ニジマスなどは肝臓の働きを正常化し、気の上昇を抑える効果があるのです。また、肝臓の血液の働きを正常化するどんご、なすな、イチゴ、うなぎ、ししゃも、スズキ、フェンネル(茴香)の種などもおススメ。食物の場合即効性はないので、春を感じ始めたら日々のメニューに積極的に取り入れてみましょう。(国際中医薬膳師 小清水由良)